

平成26年度 九文調理師専修学校自己評価（調理学科）年度末評価

学校教育基本方針（教育理念）	近代的調理師が持たねばならない高度な調理技術と調理理論に関する深遠な科学的考察を醸成し、専門職にふさわしい強い意志と豊かな情操を養い、調理的立場から、将来にわたって、地域・社会に貢献できる人間教育を目指す
学校教育目標	1 自主・自律を重んじ、積極的で意欲ある学生の育成 2 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の養成
重点努力目標	1 何事にも積極的に取り組む行動力の定着 2 質の高い調理師としての専門的な知識と技術の習得

評価基準 4：十分達成している 3：達成している
2：あまり達成されていない 1：ほとんど達成されていない

評価項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
			前期	後期	
教育課程・学習指導	専門教科やその他の科目を効果的に取り入れ「基礎力」を育成する。	専門科目とその他の教科をバランスよく配分し、「基礎力」の育成に努める。	4.0	4.0	
	即戦力となるような職業教育カリキュラムを編成する。	校内の実習・演習系の科目をなるべく多く配し、就職先となる企業等の職場に類似した状況で学習できるように努める。	4.0	4.0	調理理論は演習も行い、実践を通して理解させる努力をしている
		接遇マナー・茶道等の科目を配し、情操面など人間的な「基礎力」を高めるための学習に努める。	3.8	4.0	接遇マナー講座や日常の指導に努力している。茶道文化は洋風化した生活から日本文化やおもてなし文化に触れる良い機会である。
	指導方法の工夫や企業等の人材を活用し実践的な「基礎力」を育成する。	企業等の現場で必要となる「基礎力」は暗記ではなく体得するものであるということに、生徒自ら“気づく”ように努める。	3.0	3.3	
本校の卒業生を含め、企業等で活躍している人に授業や講演等を行ってもらい、より実践的な「基礎力」を育成できるよう努める。		3.3	3.8	卒業生を講師に迎えたり、講師陣の充実のため、発掘に努めている	

評価項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
			前期	後期	
生活指導	全教職員で礼儀指導を行う。また、問題行動の予防に努める。	挨拶・礼儀及び容儀等の指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせるよう努める。	3. 5	4. 0	授業を含め学校生活全般において、好印象を受ける容儀・礼法指導を行っている
		悩みを抱える学生の早期発見に努め、適切な教育相談を行い、問題行動等を未然に防ぐよう努める。	3. 3	3. 5	個人面談を行い学生との情報交換を大切にしている
進路指導	面談や適性検査等を実施して、学生の希望にマッチングした適切なキャリアサポートを行う。	入学後の早い時期に、進路意識の調査・把握をし、就職への動機づけを高めるための個別面談や指導に努める。	3. 5	3. 5	1年制のため、教養講座に就職関連の講義を加え、随時意識調査を実施
		就職指導においては、企業毎の人材ニーズ等を踏まえ、具体的かつ分かりやすいアドバイスに努める。	2. 8	3. 5	
		家庭との連携・協力に加え、挨拶・5S運動（躰・整理・整頓・清掃・清潔）やボランティア活動など、豊かな人間を育む教育に努める。	3. 3	3. 8	
	資格取得の指導を徹底し、就職率の向上に努める。	調理師免許と専門調理師技術考査取得100%を目指す。	3. 8	3. 8	実技試験等の不合格者指導を休業中・放課後に実施
		企業訪問を実施し、就職の門戸を拡大し、学生の希望に沿った企業への就職率100%を目指す。	3. 0	3. 0	就職への意識に乏しい学生が多かったが、校外実習先やハローワークとの連携を図り求人情報交換を密に行った。
社会人基礎力	思考力や創造力を伸ばし、物事に主体的に取り組む力や実行力の育成を図る。	現状を分析し、目的や課題を明確にすることにより、課題解決のプロセスを作成することができる能力を育成する。	2. 8	3. 0	自己分析への意識の差もあり、指導がなかなか困難である。その対応策が課題である。
		自ら目標を設定し、周囲の協力を得ながら、失敗を恐れず、ねばり強く取り組むことができる能力を育成する。	2. 8	3. 3	

評価項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
			前期	後期	
社会人基礎力	コミュニケーション能力を身につけさせ、チームで働く力の育成に努める。	自分の意見を分かりやすく伝える発信力や意見を丁寧に聞く傾聴力と意見や立場の違いを理解できる能力を育成する。	2. 8	3. 3	個人差があり成績や就職にも影響した。指導方法の工夫が必要である。
		社会のルールを守ることの大切さや、ストレスへの対応方法などセルフコントロール力を育成する。	3. 3	3. 5	日常の指導の効果が表れてきている
組織運営	経営方針・努力目標に沿って、その実践に努める。	明示された中長期の学校経営ビジョンを含め、経営方針・努力目標を全職員が共有し、教育実践に努める。	3. 0	3. 3	
		教員間の授業研究を行い、授業内容を相互評価し、教員の専門性や指導力の向上に努る。	2. 5	3. 0	相互に先輩・新人教員の授業見学を行い、アドバイスをこなっている
		学校自己評価を年2回実施し、ホームページ等で発信する。	4. 0	3. 8	リニューアルのため、公開が遅れた
	定員の確保に向けて学生募集に努める。	高校訪問や進路ガイダンス・ホームページ等を活用し、教育内容や在校生・卒業生の状況説明や学校のPRに努める。	3. 3	4. 0	HPの更新がもう少し容易に可能になれば最新情報の提供がしやすくなる。
受験生や保護者に分かりやすい募集要項（学校案内）を作成し、高校訪問・オープンキャンパス・進路ガイダンスに活用する。		3. 8	4. 0	OCは例年並みの参加者があった	
施設・設備の有効な活用と安全点検等の管理を適切に行う。	教育活動や指導は、常に安全を優先して行い、施設・設備の安全点検は月1回以上行う。	3. 3	3. 8		
	日頃から、環境整備を心掛け、省エネ運動を推進し、水道使用量や電気使用量を前年比5%減に努める。	3. 8	4. 0	エアコンの使用許可制ができないか	
	パソコンによる学生情報等の管理と校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業に努める。	3. 5	4. 0		

